

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.75



2017年8月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

ヴェントウーノ Tokyo (JR 渋谷駅ハチ公口徒歩3分)
渋谷センター街、Forever21 の B1 階にたたずむ、広々と開放感のあるスタイリッシュなイタリアン&バール!!

コースはお一人様2500円~合コン、パーティー、同窓会、個室もあります。



- 住** 渋谷区宇田川町24番1号B1F
- 交** JR 渋谷駅 (ハチ公口)・地下鉄半蔵門線渋谷駅徒歩約 3 分
- 営** 月~木 11:30~23:30 金・土 11:30~24:00
日・祝 11:30~23:00
- 休** 年中無休

☎03-3477-1199

目 次

- F I B A女子アジアカップ 2017 2
「AKATSUKI FIVE」女子日本代表 3回連続金メダルでワールドカップへ
- F I B Aアジアカップ 2017 9
「AKATSUKI FIVE」男子日本代表 ベスト8決定戦で敗退
- 全国シニア交歓大会 in YOYOGI に参加して 12
記念すべき10年目大会
- 京都中学生初心者向けクリニック 総務部・普及部 . . . 18
- 中学生初心者向けクリニックを振り返って 普及部 . . . 20
世田谷区中体連バスケットボール部先生方との座談会
- 会員だより
日本バスケットボールの今後の発展に向けて 多胡 英子 . . . 23
- 2017～18シーズン Bリーグ 24
- 2017～18シーズン Wリーグ 25
- 最後のママさん大会開かれる 26
第36回全国ママさん交歓大会
- 訃報・追悼文 28
- 事務局だより 30
- プラザ こぼればなし 31

F I B A 女子アジアカップ 2017

「AKATSUKI FIVE」女子日本代表 3回連続金メダルでワールドカップへ

[編集部]

7月23日から29日まで、インド・バンガロールで開催されたF I B A 女子アジアカップ 2017 兼女子ワールドカップ 2018 アジア予選において、日本代表は前回のアジア選手権大会（今回からアジアカップに名称変更）に続いて優勝。これで、3回連続アジア制覇という素晴らしい成績を挙げた。

今回からオセアニア地区を含めた大会となったアジアカップは、F I B A ランキング 4位の強豪オーストラリアが加わり、より高レベルの大会となったが、リオ・オリンピックで健闘した日本代表（F I B A ランキング 13位）の勢いは衰えず、決勝戦ではオーストラリアを相手に壮絶な戦いを展開し見事な優勝を飾った。

大会は、参加チームをディビジョンAと、ディビジョンBに分け、各々のディビジョンをA・Bの2グループとして、各グループにおいて総当たりの予選ラウンドを行い、両グループの1～4位を決定する。ディビジョンAは、グループA、グループBの各4チームに分けられ、予選ラウンドの順位による8チームでトーナメント戦を行い、上位4チームが2018年9月下旬にスペインで開催されるワールドカップ（従来の世界選手権大会を今回から名称変更）に出場する。

[出場チームとグループ]

ディビジョンA

<グループA> チャイニーズ・タイペイ、ニュージーランド、北朝鮮、中国

<グループB> オーストラリア、フィリピン、韓国、日本

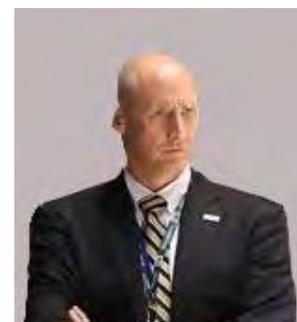
ディビジョンB

<グループA> インド、ウズベキスタン、スリランカ

<グループB> カザフスタン、シンガポール、フィジー、レバノン

ディビジョンAのグループBに入った日本代表は、今期から新たに就任したトム・ホーバス、ヘッドコーチ指導の下、数次に及ぶ合宿やヨーロッパ遠征、オランダを招聘した国際親善試合などで強化を図ってきた。

リオ・オリンピック時に比べ一部代表メンバーを若手に入れ替えてアジアカップに臨んだ日本代表、予選ラウンドでオーストラリアに敗れたとはいえ、アジアを制するに十分な実力を養ってきた。



192cm のセンター渡嘉敷選手がW N B A 出場で欠場したにもかかわらず、決勝戦では高さで上回るオーストラリアと互角に戦い、勝利をつかんだチーム力は将来に期待がもてる。

また、ディフェンス面においても進化がうかがえる。高さで勝る中国や、オーストラリアを全員のディフェンス力で、70点台の得点に抑えたことも勝利の大きな要因といえよう。

〔日本代表主なスタッフ〕

役 職	氏 名	所 属
チームリーダー	高 橋 雅 弘	JX-ENEOS サンフラワーズ
ヘッドコーチ	トム・ホーバス	(公財) 日本協会
アシスタントコーチ	恩 塚 亨	東京医療保健大学
アシスタントコーチ	知 花 武 彦	
チーフマネージャー	成 井 千 夏	(公財) 日本協会

〔AKATSUKI FIVE 選手〕

No.	氏 名	P	身長	年齢	所 属
0	長岡 萌 映 子	SF	182	23	トヨタ自動車アンテロープス
1	藤岡 麻 菜 美	PG	170	23	JX-ENEOS サンフラワーズ
6	大 崎 佑 圭	C	185	27	JX-ENEOS サンフラワーズ
7	水 島 沙 紀	SG	172	26	トヨタ自動車アンテロープス
8	高 田 真 希	PF	183	27	デンソーアイリス
12	吉 田 亜沙美	PG	165	29	JX-ENEOS サンフラワーズ
13	町 田 瑠 唯	PG	162	24	富士通レッドウェーブ
20	近 藤 楓	SG	173	25	トヨタ自動車アンテロープス
22	河 村 美 幸	PF	185	22	シャンソン化粧品シャンソンVマジック
30	馬 瓜 エ プ リ ン	SF	180	22	トヨタ自動車アンテロープス
39	赤 穂 さくら	PF	184	21	デンソーアイリス
52	宮 澤 夕 貴	SF	182	24	JX-ENEOS サンフラワーズ
	平 均		177	24.4	

〔予選ラウンド・日本の成績〕

ディビジョンAの予選ラウンドは、AB両グループ内で総当たりのリーグ戦。前回まではグループ内上位2チーム、合計4チームが決勝トーナメント準決勝へ進む方式であったが、今回から総当たりの結果でグループ内順位を決定し、その順位に従って8チームで行われる決勝トーナメントの決められた場所へ入る方式に変わった。

グループAでは、中国とチャイニーズ・タイペイ、グループBではオーストラリア、韓国、日本が上位進出を狙うと予測された。

その結果、グループAでは中国が100点ゲーム2回と他を圧倒し、ニュージーランドが2勝1敗で2位となった。

グループBでは、FIBAランキング4位のオーストラリアが日本を制して1位、日本は2位であったが決勝トーナメントの組み合わせ順番で、最強豪のオーストラリアとは決勝戦まで対戦しない位置につけたことが、後々良い結果となったのかもしれない。

やはり今回から加わったオセアニア勢は、上背もあってレベルも高く、これからも脅威になりそうである。

ディビジョンA 予選ラウンド星取表

グループA

順位	チーム	CHN	NZL	TPE	PRK	POINTS				SCORE		
						PI	W	L	CP	For	Ag	+/-
1	 中国		○ 77-48	○ 102-63	○ 110-53	3	3	0	6	289	164	125
2	 ニューージーランド	● 48-77		○ 59-53	○ 71-50	3	2	1	5	178	180	-2
3	 TPE	● 63-102	● 53-59		○ 77-76	3	1	2	4	193	237	-44
4	 PRK	● 53-110	● 50-71	● 76-77		3	0	3	3	179	258	-79

グループB

順位	チーム	AUS	JPN	KOR	PHI	POINTS				SCORE		
						PI	W	L	CP	For	Ag	+/-
1	 オーストラリア		○ 83-74	○ 78-54	○ 107-65	3	3	0	6	268	193	75
2	 日本	● 74-83		○ 70-56	○ 106-55	3	2	1	5	250	194	56
3	 韓国	● 54-78	● 56-70		○ 91-63	3	1	2	4	201	211	-10
4	 フィリピン	● 65-107	● 55-106	● 63-91		3	0	3	3	183	304	-121

※ PI: 試合数、W: 勝数、L: 敗数、CP: 得点、For: 総得点、Ag: 総失点、+/- (得失点差)=For(総得点)-Ag(総失点)

7月23日 フィリピン戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	25	31	31	19	106
フィリピン	11	20	8	16	55

日本は、初戦にフィリピンと対戦し、しっかりとしたディフェンスでボールを奪って速攻に繋げ、100点ゲームで快勝し幸先の良いスタートを切った。

スターティング・メンバーは、#0 長岡、#6 大崎、#12 吉田、#20 近藤、#52 宮澤で、若手とベテランが半々といったところ、リバウンドを重視してかインサイド陣は全員 180cm 台で構成、相手のシュートミスからリバウンドを取って速攻に繋げ、高得点をマーク。

ちなみに、リバウンド本数は、日本49本に対してフィリピンは38本、シュート成功確率も2Pシュート、3Pシュート、フリースロー全てでフィリピンを大幅に上回った。

選手も高田以外の全員が出場し、5分間のみの出場の吉田以外は全員が得点する快挙。出場した11名中6名が2桁得点を挙げて気を吐いた。

7月24日 韓国戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	12	26	16	16	70
韓国	14	7	13	22	56

日本は高田の2Pシュートで出だしを先行するも、韓国がすぐに追いつく展開。その後、残り5分まで重苦しい雰囲気です試合が進む。頻りにメンバー交替を行った韓国は残り5分

に9-6とリード。日本は、残り3分に交替して入った#52 宮澤が3Pシュートを決めて12-9とリードするが、その後、韓国に追い上げられて12-14と逆転される。

第2ピリオドに入ると、日本は、#1 藤岡の連続シュートに始まり#22 河村や#13 町田の連続速攻などで猛攻し、あっという間にリードを広げ、開始2分に20-14とリードを広げる。更に日本は、残り5分に#0 長岡のバスケットカウントから得点ラッシュが続き、#12 吉田や#8 高田らの2Pシュートまで加ってこのピリオド26-7と圧倒、前半を終えて38-21と17点差をつける。

第3ピリオドも、立ち上がりから日本は、#20 近藤の3Pシュートなどでリードを広げたが、その後フリースローの失敗などで得点が伸び悩み、リード点数は20点に終わる。

第4ピリオド、日本は#1 藤岡が連続得点の大車輪、#6 大崎、#1 長岡の得点で更にリードを広げ、メンバーを入れ替える。すると、日本のミスによる相手攻撃の機会が増え、残り3分半に64-51の13点差に迫られてタイムアウト。その後も韓国はイチかバチかの攻撃を仕掛けるが、リードする日本は冷静に対応して逃げ切った。

データ的に日本は、3Pシュートこそ19%-38%と韓国より下回ったが、2Pシュートでは53%-40%、フリースローでも61%-50%の成功率でリード。ターンオーバーで日本は13だったが、韓国は24とミスが多かった。

日本はベンチメンバーを含めて、この試合全員出場で快勝した。

7月25日 オーストラリア戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	15	15	20	24	74
オーストラリア	14	20	25	24	83

予選ラウンド最終戦、日本は、強豪オーストラリアと対戦、第1ピリオドこそ#0 長岡の活躍などで接戦に持ちこんだが、相手の高さで正確なシュートに悩まされた。

日本は開始5分に#0 長岡のジャンプシュートで13-12とリードしたが、その後2分ほど膠着状態となり、残り3分半にオーストラリアが14-13とすると、日本も#52 宮澤が2Pを決めて15-14と逆転する。

第2ピリオドに入るとオーストラリアが3Pシュートを含むシュートを連続して決めて21-15とリードするが、日本も#1 藤岡の2Pシュートや#52 宮澤の3Pシュートで残り6分に22-23の1点差に迫った後、一時逆転に成功する。しかしオーストラリアも残り3分ごろから2Pシュート、3Pシュートと立て続けにシュートを成功させ、残り2分に30-24とリードする。日本も#20 近藤の3Pや#6 大崎の得点で粘るが、残り1分を切ってからオーストラリアに連続得点されて前半4点のビハインドで終わる。

第3ピリオド、後半追いつきたい日本だったが、高さのある相手ディフェンスにシュートを狂わされ、得点が伸びない。対するオーストラリアは、2Pシュートと3Pシュートのラッシュで連続得点し、第3ピリオド残り6分に44-23と一気に日本を突き放す。

その後、日本は持ち直して#13 町田の3Pシュート、#8 高田、#1 藤岡の得点で頑張るが、オーストラリアは3Pシュートを確率よく3本決めて得点を重ね、残り2分に58-48とリードを広げ、59-50の9点差で最終ピリオドに入る。

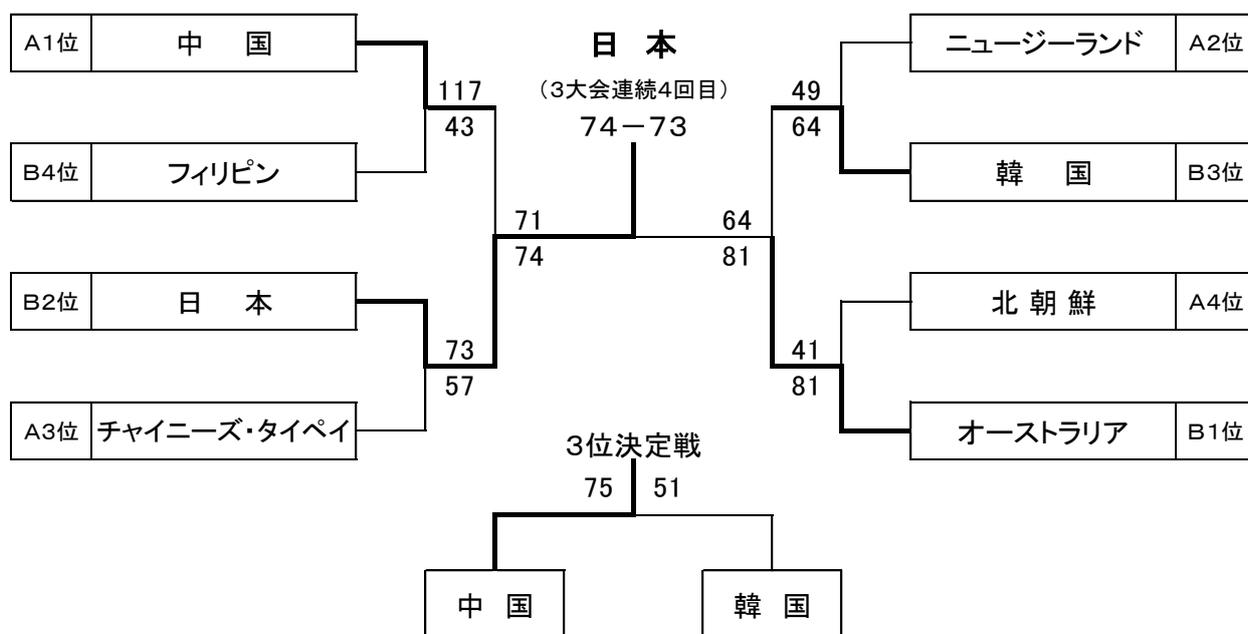
第4ピリオドでは、この得点差が最後まで響き、日本の必死の追い上げも間に合わず、9点差で敗れた。オーストラリアのシュート力は凄まじく、3Pシュートの成功確率60%

と驚異的な数字、日本は2Pシュートの確率52%でオーストラリアの44%上回ったが、3Pシュートの確率が27%に終わり、高さのあるディフェンスに対応できなかった。

オーストラリアは高さを生かしたリバウンドも執念深く、これからアジアカップにおける強敵となりそうだ。

[決勝トーナメント]

ディビジョンA 決勝トーナメント表



7月27日 準々決勝

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	13	20	19	21	73
チャイニーズ・タイペイ	15	15	15	12	57

グループB 2位で決勝トーナメントに進出した日本は、初戦の準々決勝でグループA 3位のチャイニーズ・タイペイと対戦し、73-57で一蹴、準決勝へ進むとともに、アジアカップ4位以内が決まり、FIBA女子ワールドカップ2018の出場権を獲得した。

7月28日 準決勝

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	18	14	22	20	74
中国	15	17	23	16	71

準決勝は宿敵中国と対戦、接戦をものにして3点差で決勝戦へ進出する。

2年前、オリンピック予選となったアジア選手権大会で決勝戦を戦った中国相手に、日本は、#0長岡、#1藤岡、#6大崎、#7水島、#8高田のスタートメンバー。日本は、立ち上がり#1藤岡がシュートを決めたものの、以後中国に先行されリズムが取れない。残り5分

頃2分間ほど膠着状態となり、お互いにメンバーを入れ替える。残り4分に日本は、#6大崎が決めて10-8と迫り、残り2分半に#30馬瓜がフリースローを決めて10-10と同点に追いつく。日本は残り1分を切ってから#8高田のフリースローと2Pシュートでリードするものの、中国もすぐに得点して3点差に迫る。最後、日本は#52宮澤がフリースローをしっかりと入れて18-15と第1ピリオド3点リードで終わる。

第2ピリオドに入り、日本がディフェンスをミスしている間に中国が連続得点し、開始2分に18-21と逆転され、その後も中国に3Pシュートなどで先行され、残り6分に20-24とリードされてしまう。その後も中国先行して日本が追う形で経過するが、残り1分半に日本は、#1藤岡のシュートに続く#22河村へのアシストで、ついに30-30の同点とする。その後は両者とも得点し、32-32の同点で前半を終える。

第3ピリオド、日本が#0長岡の3Pシュートで先行するも、中国も高さを生かしたゴール下シュートなどでリードする。この時間帯、日本#1藤岡、#0長岡、#6大崎らの活躍でシュートの入れ合いとなり一進一退状態が続く。終盤日本は、#52宮澤の3Pシュートや#0長岡のミドルシュートなどで食い下がり54-55の1点ビハインドで第4ピリオドへ。

第4ピリオドに勝負が賭けられた日本は、#1藤岡のシュートで先行したものの、その後は中国の連続2Pシュートなどでリードを広げられ、残り7分にタイムアウトを取りメンバーを入れ替える。

残り5分の#0長岡の3得点フリースローに始まり、今度は日本がシュート成功ラッシュ、残り3分#8高田の2Pシュートでついに70-69と逆転に成功する。その後、中国に2Pシュートで一時的にリードされるが、残り2分に#52宮澤が3Pシュートを決めて再び74-71と3点リードし、一歩抜け出す。中国はタイムアウトの後3Pシュートを狙うが、日本のディフェンスが功を奏して成功せず、結局3点差のままタイムアップとなり、日本が決勝へ進出した。

一時は中国が勝利するかと思われたが、粘り強いディフェンスと執念の攻撃により競り勝った日本、その源はやはり3Pシュートで実に31%の成功率である。対する中国は2Pシュートで54%と日本の43%を上回ったが、3Pシュートで23%と下回り、この差が勝敗を極めた。日本の武器でもある3Pシュートは、強力な決め手になりつつあるのと同時に、日本のしつこいディフェンスが功を奏し、中国のターンオーバーが17と日本の12をはるかに越えたことも大きな勝因となった。

7月29日 決勝戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	17	16	26	15	74
オーストラリア	17	22	14	20	73

まさに大激戦となった決勝戦。日本のスタートメンバーは、足の故障で出場が厳しい#12吉田はベンチで、#0長岡、#1藤岡、#6大崎、#8高田、#7水島の5人となった。予選でオーストラリアに苦杯をなめたが、その轍を2度は踏まず、全員が一丸となって高さのある相手に果敢なディフェンスを展開、この厳しいディフェンスが第4ピリオドの最後になって功を奏し、オーストラリア必死のシュートが次々とはずれ、第3ピリオドに逆転した。

第1ピリオド、開始早々#1藤岡のシュートと#8高田のシュートでまずまずの展開かと思

いきや、その後オーストラリアの3 Pシュート2本を含む猛攻で、3分過ぎに4-12と引き離される。日本は、タイムアウトの後メンバーを入れ替え、中盤#1 藤岡や#0 長岡の頑張りで少しずつ点差を詰める。日本は残り2分#1 藤岡のアシストから、#0 長岡がバスケットカウントを決め、13-16、更に残り1分を切って、また#0 長岡が2 Pシュートをきめてついに17-17の同点に追いつく。

第2ピリオドに入ってオーストラリアが先行するも、#52 宮澤の3 Pシュート、#13 町田の2 Pシュートで22-19とリードするが、その後オーストラリアの反撃にあい残り6分に22-25と逆転されてしまう。しかし日本も#13 町田の2本3 Pシュート成功や、#8 高田の得点で盛り返し、30-27と再びリードを奪う。

ここからのオーストラリアの反撃はすさまじく、高さを生かしたドライブインでバスケットカウントを奪うなどして再逆転。日本は#52 宮澤が3 Pシュートを決めるものの、オーストラリアが39-33と6点リードして前半を終わる。

第3ピリオド、#7 水島の3 Pシュート攻勢が始まる。開始早々に決めた後、残り6分、続けて残り5分50秒に3 Pシュートを決めて日本を鼓舞すると、#0 長岡や#52 宮澤も反応してオーストラリアとシュートの入れ合いとなり、残り4分半に49-49と同点。

残り3分半、#7 水島の3 Pシュートをブロックしようとしたオーストラリアのファウルによって得たフリースローを、水島が3本きっちり決めると、残り1分半に今度は#6 大崎が果敢に攻めてバスケットカウントを奪い、残り30秒で水島のシュートが決まって、このピリオド59-53と日本が6点リードする。水島はこのピリオドだけで14点の得点を挙げる。

第4ピリオド、日本は、立ち上がりのミスにつけ込まれ、オーストラリアに連続得点されて開始3分に59-62と逆転される。しかし日本は、残り6分半にまたもや#7 水島が3 Pシュートを決めて同点に追いつくと、残り5分と残り3分にも3 Pシュートを成功させて、71-67とリードを奪う。

残り1分半、オーストラリアが必死の連続シュートを決め71-71の同点にするが、日本はすかさず#7 水島がまた3 Pシュートを成功させて74-71と一歩抜け出す。残り1分、オーストラリアも得点するが3 Pシュートにはならず74-73、その後オーストラリアも盛んに攻撃するが、必死に守る日本のディフェンスにシュートが入らず、結局74-73の僅差で日本の勝利となった。

好調だった#7 水島は、3 Pシュートの成功率77.7%という驚異的な記録を残し、26点という高得点を挙げた。そして日本代表のシュート成功率を見ると、3 Pシュート44%、2 Pシュート34%、フリースローは実に93%の成功率であった。ちなみにオーストラリアは2 Pシュートで49%と上回ったが、3 Pシュートは21%、フリースローは73%と日本を下回った。

勝利をもたらした日本の3 Pシュート成功率44%は、要所で相手に強烈なダメージを与え、93%のフリースロー成功率とともに、相手の高さに対する大きな武器となった。

僅差とはいえ、世界ランキング4位のオーストラリアを破ってのアジア3連続優勝は称賛に値する。上背で劣る日本の女子バスケットが、早いテンポのバスケットと3 Pシュートを武器に格上のチームに挑み、見事に功を成し得たことは日本の女子バスケットが世界に近づいたことを証している。

2018年に開催される女子ワールドカップと2020年東京オリンピックが楽しみになってきた。

F I B A アジアカップ 2017

「AKATUKI FIVE」男子日本代表 ベスト8決定戦で敗退

[編集部]

男子日本代表は、去る6月の長野市真島総合スポーツアリーナで開催された東アジア選手権 2017 で、ルカ・パヴィチヴィッチ・ヘッドコーチの指揮により3位になり、8月8日(火)～8月20日(日)にレバノン・ベイルートで開催の「F I B A アジアカップ 2017」に挑戦した。

男子日本代表は、予選ラウンドをグループD 2位で通過したが、ベスト8決定戦でグループC 3位の韓国に敗れ、決勝トーナメントに進むことができなかった。

F I B A アジアカップ 2017 の出場チームは16チームで、予選ラウンドは16チームを4グループに分け、各グループ4チームによるシングルラウンドロビン方式(1回戦総当たり戦)を行い、予選ラウンド各グループの1位から4位を決定する。各グループで、1位チームは準々決勝に進出し、2位および3位チームはベスト8決定戦を行って準々決勝に進む4チームを決定する。すなわち、ベスト8決定戦は、グループA・B及びC・Dそれぞれの2位と3位の対戦4試合を行い、勝利した4チームである。この4チームが各グループ1位の4チームとベスト8として準々決勝からの決勝トーナメントに進出する。

[出場チームとグループ]

- <グループA> イラン、ヨルダン、シリア、インド
- <グループB> イラク、中国、フィリピン、カタール
- <グループC> カザフスタン、レバノン、韓国、ニュージーランド
- <グループD> 日本、香港、チャイニーズ・タイペイ、オーストラリア

男子日本代表(F I B A ランキング48位)は、7月20日に来日したフリオ・ラマス新ヘッドコーチを迎え、7月29日、30日にウルグアイ代表チーム(F I B A ランキング26位)との国際強化試合を青山学院記念館で行った。対戦成績は1勝1敗であり、問題点がピックアップされたようだ。

フリオ・ラマス新ヘッドコーチは、フリオ・セサル・ラマスがフルネームで、1964年6月9日アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれの52歳であり、男子アルゼンチン代表ヘッドコーチとして2014年FIBA世界選手権大会で11位の成績を残している。

[日本代表主なスタッフ]

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	フリオ・ラマス	(公財) 日本協会
アシスタントコーチ	エルマン・マンドーレ	(公財) 日本協会
アシスタントコーチ	佐古 賢一	(公財) 日本協会
パフォーマンスコーチ	佐藤 晃一	(公財) 日本協会
パフォーマンスコーチ	阿部 勝彦	(公財) 日本協会

[AKATSUKI FIVE 選手]

No.	氏名	P	身長	年齢	所属
0	橋本 竜馬	PG	178	29	シーホース三河
2	富樫 勇樹	PG	167	23	千葉ジェッツふなばし
6	比江島 慎	SG	190	26	シーホース三河
7	篠山 竜青	PG	178	29	川崎ブレイズサンダース
8	太田 敦也	C	206	33	三遠ネオフェニックス
10	竹内 公輔	C	206	32	栃木ブレックス
12	馬場 雄大	SF	195	21	筑波大学 4年
24	田中 大貴	SG	192	25	アルバルク東京
25	古川 孝敏	SF	190	29	琉球ゴールデンキングス
34	小野 龍猛	SF	197	29	千葉ジェッツふなばし
35	アイラ・ブラウン	PF	193	34	琉球ゴールデンキングス
88	張本 天傑	PF	197	25	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	平均		191	28	

[予選ラウンド・グループD・日本代表の試合結果]

予選ラウンド、グループDで、緒戦に強豪オーストラリア（FIBAランキング10位）と当たり、次に、チャイニーズ・タイペイ（FIBAランキング48位）、香港（FIBAランキング65位）と続いた。

以下に対戦成績を掲げる。

8月8日 オーストラリア戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	20	11	12	25	68
オーストラリア	19	23	22	20	84

オーストラリア戦では、相手の高さと厳しいディフェンスにより第2・第3ピリオドを抑えられて得点が伸びず、勝利できなかった。

第2戦、第3戦は余裕をもって対戦し、グループDで2位を確保した。

8月10日 チャイニーズ・タイペイ戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	22	18	20	27	87
チャイニーズ・タイペイ	17	5	12	15	49

8月12日 香港戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本	23	23	22	24	92
香港	15	9	18	17	59

グループD 星取表

順位	チーム	オーストラリア	日本	チャイニーズ・ タイペイ	香港
D1	オーストラリア		○ 84-68	○ 90-50	○ 99-58
D2	日本	● 68-84		○ 87-49	○ 92-59
D3	チャイニーズ・ タイペイ	● 50-90	● 49-87		○ 77-62
D4	香港	● 58-99	● 59-92	● 62-77	

[ベスト8決定戦・日本代表の試合結果]

ベスト8決定戦はグループCで上位3チームによる激戦を交わした3位の韓国（FIBAランキング30位）と対戦した。韓国は、ニュージーランド（FIBAランキング20位）（グループC1位）に勝利し、レバノン（FIBAランキング43位）（グループC2位）に敗退したが、同一ポイントの対戦3チーム間での得失点差で3位になった。

8月14日 韓国戦

	1stP	2ndP	3rdP	4thP	計
日本（D2位）	15	26	15	12	68
韓国（C3位）	17	22	18	24	81

日本は、第1ピリオド初期にリードするが、第2ピリオドでは押され気味で、前半を2点のリードで終わった。後半は第3ピリオドまで優勢にゲームを進め、残り3分の時点で7点をリードしていた日本だが、残り2分ころから韓国のシュートが決まり始め、日本は56-57の1点のビハインドとなる。

第4ピリオド、日本は、開始後2分の間に韓国に3Pシュート2本を決められたのに対しフリースローの1点のみ。その後も韓国が得点を重ねるのに、日本は残り4分頃に初めて#24 田中の3Pシュートが決まる始末。終盤のフリースローも韓国がきっちりと決める一方、日本は50%の成功率であり、完敗の一戦である。

ゲーム全体でもフリースロー成功率が、韓国の12本中10本に対し、日本は18本中11本の60%に過ぎなかった。終盤での韓国の厳しい防御と怒涛の攻めに屈し、13点のビハインドでベスト8が得られず、決勝トーナメントに進めなかった。

世界大会への登竜門は来る11月から開催のワールドカップ・アジア地区予選である。新しいヘッドコーチを迎えた男子日本代表チームは世界の強豪を相手に多くの経験を積んで、このアジア地区予選に臨んでほしい。

身長に劣る日本代表は、世界の強豪に一試合で失点80点を覚悟する必要があるので、80点以上の得点能力が必須である。加えて、厳しいディフェンスで相手のミスを誘い、相手得点を70点台に抑えられるチーム作りを期待する。

全国シニア交歓大会 in YOYOGI に参加して

記念すべき10年目大会

[編集部]

平成17年に始まったこの大会は、今年で10年を数え10回という節目を迎えた。当初から参加しているチームもあれば、最近参加し始めたチームもあり、バスケットボールのメッカともいえる代々木第二体育館での試合は、経験未経験を問わず何かしらの感動に結びついているようである。

毎回参加者から感想文をいただいているが、その参加者たちが異口同音に発する言葉は、「バスケットを続けてきてよかった」もしくは「感動」という二言であった。

10年前、男子60歳以上という参加資格で始まったこの大会に、当初から参加された方々も多いと思われるが、10年前60歳代だった方は今回確実に70歳代となられ、元気で生涯バスケットボールに取り組まれているその姿は、周囲を鼓舞させるものがある。

近年70歳以上の部が設けられたが、上記のことを勘案すれば当然の成り行きともいえよう。

代々木第二体育館は、今年から長期の全面改修工事に入るため、しばらくはバスケットボールメッカにおける開催とはいかないようだが、引き続きバスケット好きのシニアバスケットマンの元気な姿にお目にかかりたいものである。

以下に、お寄せいただいた今回大会の感想文を紹介する。

シルバーキッズ #34 藤原 徹さん

毎年この交流戦に参加をさせて頂き大変感謝をしています。今年も怪我もなく無事に試合を終わることができました。昨年もそうだったのですが、試合が終わると来年は参加できるのだろうかという不安と、また皆さんの元気な顔を見たい、試合を通じて交流をしたいという期待もあり、私自身の励みにもなっています。

我がシルバーキッズで昨年までチームの面倒をみて頂いていた上野先輩が、残念ながら今年永眠をされて、今年の試合には参加できませんでした。親分肌でチー

ムの面倒をよく見て頂きました。そして外見からは想像できませんが、細かい点によく気がつかれたことは印象に残っています。

練習後の飲み会でも焼酎の水割りを片手に持って、楽しい時間を過ごしたことがつい最近のことのように思われます。上野さんは自分自身の考えをしっかりと持っておられましたが、他の人に強要はされませんでした。いわゆる大人でしたね。私もああいうふうになりたいなあとは思いますが、なかなか現時点では難しいことと感じています。



さてバスケットの話になりますが、この大会に参加させて頂いて年数がだんだんと過ぎていき、他チームでは新しい人たちも毎年参加されるようになり、これはこの大会が今後とも継続して開催される上で大変大事なことと思います。シルバーキッズはチーム事情から新人（60歳以上）がなかなか入ってこれない事情もありますが、各チームともにそれぞれの事情があるので仕方がないことだと思います。

そんな中でもやっぱり試合をする限りは、何とか勝ちたいという気持ちは正直な気持ちです。

段々と体力、気力が落ちていく中で、皆で力を合わせて頑張るのもまた楽しいことです。来年に向けてこの大会に参加できるよう日々のトレーニングに励みたいと思います。参加されている大先輩のように一年でも長くバスケットができるようになりたいですね。

最後にいつも大会の準備をして頂いております皆様に感謝をして私の感想とさせていただきます。有難うございました。

千葉 #16 堀内 文子さん

今年も全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI に参加させていただきました。早、10回目を迎えるのですね。



私たちのチームは、日頃それぞれ敵同士が集まってのチームで、合わせての練習はなかなかできませんが、皆さんのチームワーク力が冴えて楽しい試合となりました。

バスケットボールの聖地で汗を流すのは一段と気持ちが良いです。普通では考えられない歳で、それもバスケットボールという体力を使うスポーツをできるのは有難いことです。

親睦会では普段聞けない話ができ、また往年の名プレイヤーもいらして記念撮影する人もいました。

準備や進行、片付けなど振興会の方々には感謝申し上げます。来年から2年程代々木ではできないとのことですが、別の場所で行うと聞いてまた楽しみにしています。

シルバーキッズ・レディース #81 花川 光子さん

「初めての大会参加」

久しぶりの代々木。スーツケースをゴロゴロと引きずりながら、JR原宿駅から体育館に向かって歩いていく。歩道橋を渡り終え、幅広い石の階段を上がっていくと、通路に出た。

「わあ！あの時のままだ。」右手に「第一体育館」、左手に「第二体育館」が見えてくる。もうかれこれ40年以上前の話になる。当時大学生だった私。運よく前座戦とでもいうか、大会エキビジョンマッチに選抜され、第二体育館で試合をしたことがある。どんないきさつだったのか、今となっては定かでない。第二体育館で試合ができたのは、後にも先にもこれ一度きりだった。

吊天井の個性的に外観に圧倒され、東京オリンピックに合わせて建設された国立代々木競技場、第二体育館でゲームができる喜びに浸っていた記憶だけは鮮明に残っている。

今回、そんな思い出深い体育館で試合ができたことはこの上ない喜びであった。



敬愛するシルバーキッズ・レディースの面々は、神戸開港150年記念の年を迎えた兵庫県神戸市を拠点として「いつまでも少年の心を！」をモットーに活動している。バスケットボールを通じてメンバー相互の親睦・健康維持増進を図ることが目的である。普段の練習では、長年プレーを磨いてきたメンバーたちが容赦のない叱咤激励で互いに気持ちを奮い立たせている。歳を重ねなお「いつまでも少年の心を！」と天晴である。

この度の大会でシルバーキッズは見事、横浜に勝利することができた。小気味よい、研ぎ澄まされた感覚が伝わってくる試合運びで、応援していても心地よかった。無理・無茶をすることなく、どうプレーしたらよいか熟知していたメンバーの健闘ぶりであった。さすがに全ての劇的プレーを見つめてきた選手に尊

敬の念を抱かずにはいられなかった。

「夕闇が迫る渋谷での懇親会」

額入りジョーダンのユニフォームが掛けられていた店。そこでも名だたる往年の選手にお目にかかれたことは、身に余る光栄であった。選手が交流を深める貴重な場を与えてくださったこと、更に開催にあたり長年ご尽力いただいていたのだと実感、感謝した。

今回は、数々の名場面を生んだアリーナが見納めになった大会でもあった。東京オリンピック 2020 年、新国立競技場へと変貌するであろう第二体育館を楽しみにしたい。

駄馬チーム #2 藤田 覚史さん

平成 29 年 5 月 15 日月曜日朝 9 時、3 年ぶりに代々木第二体育館のコートに立った。全国シニアバスケットボール交歓大会への 2 回目の参加だ。前は 60 歳になったばかりの時、もちろん一番若く、年上のプレーヤーが自分以上に熱かったのを覚えている。そして今回も同じ思いを味わうことになったのである。なんで、みんなこんなに燃えているのだ！しかも楽しそうにプレーしている。

僕はバスケットを中学校から始めたので、もう半世紀 50 年続けたことになる。はじめてボールを触った中学校を卒業した時にクラブの OB 会として作ったのが駄馬（東京）で、その時のメンバーで残っているのは 3 人だけになってしまった。このオリジナル駄馬 3 人の中では、ただ一人バスケットをきちんとやってこなかった僕なのだけれど（だからプレーも上手くない）、あとの二人に助けられてここまで来られたのかなと思うと感謝しかない。その後、多くの仲間が集まってきてくれて今の駄馬がある。この駄馬の仲間たちにも感謝しかない。



ディープにボールを触っていた時期もあれば、まったくボールを触らなかった年もあり

ながらの 50 年だったが、皆のおかげで、ここ代々木のコートでプレーできたと思って感謝している。

でも、ここに集っている人たちの多くは、僕よりももっともっと長くバスケットボールを楽しんできた人たち、レジェントだ。僕が若かったころ、バスケットボールの聖地と言われているここ代々木第二体育館の観客席からそのプレーを見た人もいる。そんな人たちと同じコートに立っていることにワクワクしている。だから、全国からここに集まっているプレーヤーたちにも感謝しかない。

今年は第 10 回大会。毎回、毎回、運営に尽力していただいている振興会の方々にお礼申し上げます。ありがとうございます。感謝、感謝です。

また、初日の晩に行われた懇親会！バスケットをやっているというだけで、名前も知らない人たちと（もちろん既に顔見知りの人もたくさんいるのだけれど）和気あいあいとお酒を飲めて、楽しいおしゃべりをして、あっという間に終わってしまった懇親会でした。ありがとうございます。

最後にもうひとつ。代々木第二体育館でプレーするだけでも楽しかったのですが、今回は、三年前には決められなかったゴールも決められましたので大満足でした（笑）。

もちろん、次回大会も参加します。そして、多くの人たちと交流したいと思っています。本当にありがとうございました。

埼玉 GS・ブルーウィンズチーム #37 大島 正光さん

1964 年東京オリンピックをはじめ、幾多の名勝負を繰り広げてきた、この日本バスケットボールの「聖地」代々木第二体育館。その「聖地」のコートに立ってプレーすることは、プレーヤーとしての憧れであり、天にも昇る嬉しさ・幸せを感じる瞬間である。

今回実現した聖地でプレーした喜びは言葉に尽くせないほど最高の満足感を味わうことができた。



私はこの原稿を書くにあたり、大会の企画、運営にかかわったすべての方々に感謝の意を伝えたい。多くのバスケットボールプレーヤーが憧れる「聖地」で、学生時代から続けてきたバスケットボール人生の 1 頁に、感慨深い体験を刻むことができたことに感謝している。心に残る 2 日間となった。

試合開始前数々の名プレーヤーが使用したであろう更衣室に入った瞬間、広々としてロッカールームと静寂した空気に威圧を感じつつ高ぶる気持ちを抑えることができない自分がいた。ウォーミングアップそして試合開始、緊張の中、ボールを追いかけ、コートを駆け回り感激と現実を味わいながらプレーに集中した。

思い起こせば、中学時代から一緒にバスケットを始めた友人と共に、誰もが約 50 年後に、この聖地において駆け回る姿を想像していただろうか。しかし現実として、コートに立ち走ったことは、偽りのない事実である。試合結果は人が出て惜敗であったが、日々練習している仲間と戦った時間は、一生忘れることはできない。また、自分をチームに快く迎えてくれた先輩方に感謝しつつプレーを満喫できたことに感謝・感激である。

日々、切磋琢磨しつつ、常に楽しく一緒にプレーしてきた仲間と今回縁があって、この「聖地」でバスケットボールができたことが何より嬉しい。本当に言葉にならない、仲間感謝したい。大会を終えて早二ヶ月が経ちますが、心地よい感謝の日差しが私の心に振り続けている。

来年も是非この「聖地」に立てるよう、自らには日々の練習、体のケアをしっかりとしていきたい。最後に大会を企画、運営関係の方々には重ね重ね感謝するとともに、これからも「生涯現役」を心に誓いバスケットボールを愛するみなさんとともに歩んでいきたい。

セブンブラザーズ #28 高原 洋太郎さん

5月16日（火）の2試合に初めて参加させていただきました。セブンブラザーズでは新人が感想文を書くのが慣例となっているようで、今大会が初参加となる小生（61歳）が指名された次第ですが、若輩（？）ながら感想と希望など述べさせていただきます。

セブンブラザーズは旧七帝国大学（北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州）のバスケットボール部OBで60歳以上になったメンバーで構成されています。各メンバーは学生時代に七帝戦と呼ばれる定期戦を4年間経験しています。開催校が毎年順繰りに変わるため、自校開催がなければ4年間で4つの大学を訪問することになり、大会後の現地滞在も含め、非常に思い出に残る大会で、体育会バスケット部に所属して良かったと思える歴史ある大会です。七帝戦での戦績はOBになってからも事あるごとに語られますが、現役時代には敵味方であった選手が、還暦の節目を迎え、現役時代の恩讐（？）を超えて大同団結し、国立大学の気概を見せようと立ち上がったのがセブンブラザーズでしょうか。



小生が60歳を超え当チームへの参加を打診されたとき、全然身体を鍛えていなかったので一念発起し、今年の正月から「月1ゴルフ」ならぬ「月1バスケ」を励行して臨んだ大会でしたが、急な無理が祟ったのか、大会直前に膝の調子がおかしくなり、全くシュートが入らずに、チームメイトの皆さんには大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします（捲土重来）。それでも第一試合で対戦した慶応大OBの方から「現役時代にいつもマンツーマンで付いていたこと、覚えてる？」と聞かれ、40年ぶりの邂逅に驚く一幕もありました。

本大会には70歳以上の試合も組まれていて、これまた驚きでしたが、「無理せず、怪我せず、怪我させず」をモットーに、来年も参加できればと楽しみにしています。

余談ですが、日本のバスケット界は「Bリーグ」の誕生で新たなステージに入りました。小生は縁あって、FIBA から国際試合停止処分を受けた時に（公財）日本バスケットボール協会に監事を務めておりました。あの時を振り返ると、やはり男子2リーグ並列の時代が長すぎたことが、あのような処分に至った最大の原因だったと思います。それぞれの当事者は最善を尽くしていても、相互不信のにらみ合い状態に陥り、どうにも身動きが取れなくなっていました。その後の経過は皆さんご承知の通り、川淵さんを始めとする日本サ

ッカー協会の皆様に、スポーツ界全体の広い視野に立って頂き、本当にお世話になっています。

特に①ライセンス制度の導入、②その際の自治体からのアリーナ建設に係るコミットメント取得、③独立した会社組織によるチーム運営、④ナショナルチーム・メンバーの招集兼・商標の取扱い、⑤サラリーキャップ制の廃止など、それまで分かっていたとしても大きな抵抗に遭って暗礁に乗り上げていた諸施策を次々と打ち出し、あれだけの短期間に男子2リーグ統合を果たして頂く一方、メインとなるスポンサーをいち早く決定して頂いたことは、Jリーグでの経験を敷衍してもらえなければできなかったことかと思えます。

大企業の福利厚生の一環として、損金算入が可能な広告宣伝に使われるトップリーグのチーム運営からの脱却は、どのスポーツも悩んでいるところかと思えます。東京オリンピックのロゴ使用を許されるメインスポンサーに、日本の大企業は1社当たり100億円ものお金を払っています。なぜでしょうか。数十年ぶりの東京オリンピックにそれだけの「価値」があると大企業が判断したからでしょう。バスケットボールに限らず、スポーツが自立するためには、まず広く薄くの財政基盤を確立し、国際大会での活躍を通じてスポーツとしての「価値」を向上させ、その結果、そのスポーツの市場規模（＝動くお金）を拡大していくことが必要でしょう。

小学校や中学校に入って、どのスポーツを始めようかと迷う子供たちは毎年誕生します。今年12歳の小学6年生も6年経てば18歳になり、U18の代表入りも可能です。3年後に迫った東京オリンピックに留まらず、その後の日本のバスケット界が発展していくためには、まずトップリーグの発展を梃子に、バスケット界全体の財政基盤を充実させつつ、ナショナルチームの活躍により、プレーヤーのみならず、有意の若い人材がバスケットボールというスポーツに魅力を感じて参加してくれる（人材の）好循環の確立も必要でしょう。

日本のバスケット界は、まだ数多くの関係者のご尽力により時間をもらった段階に過ぎません。スポーツ活動は、ただプレーやコーチや審判がしたい、ただ自分のチームが強くなればいい、チーム運営にこれだけのお金や時間を使ってきたのだから自分の主張が通って当然といった「独善」に陥りがちですが、バスケットボールというスポーツに尽きない「価値」を見出している我々としては、本大会でのプレーを楽しむだけでなく、どのような形であれ、日本のバスケットボールの普及と発展に貢献していきたいものです。

< * >

[平成30年度大会]

来年度この大会は代々木第二体育館が長期改修工事に入るため、第二体育館での開催ができません。しかしながら、大会は続けた方が良いという多くの方のご意向から下記により開催する予定です。

記

日程 平成30年5月24日（木）～25日（金）

場所 国立代々木青少年センター体育館（代々木公園隣）

京都中学生初心者向けクリニック

[総務部・普及部]

本年5月14日(日)に京都市で地元中体連主催、振興会後援の中学生初心者クリニックが、女子3校29名、男子4校27名、計56名の参加者を得て開催された。当会理事の結城講師により約2時間半、「シュートを上手くなろう」とのテーマをもとに実施した。本年も地元京都大学の男子選手2名がデモンストレーターとして参加、お手伝い頂いた。謝意を表したい。

<結城講師によるクリニックの概要>

総論・理論編

バスケットボールとは、狭い場所で10人がひしめきあって、状況がめまぐるしく変わる。その状況が変わる中、瞬時に状況を把握し、自分は何をしたらよいか判断し、瞬時に行動に移すスポーツである。

① 見る

視線を常にリングの高さに保つこと(コート全体の状況が把握できる)

これを習慣付けること。

② 瞬時に動く

常にバスケットボールスタンス(足は肩幅より少し広く開き、つま先と膝は進行方向に向け、視線は目の高さより上、重心は拇指球で膝を少し曲げる)をキープし、瞬時に8つの方向に動けるように。



実践編ドリル

○ボールを保持したままでランニングとストップ
(3ステップその後2ステップ)

ポイント: 拇指球を意識すること

腰の高さを変えないこと

○ボールポジションとボールコントロール

ポイント: 常に指先を意識して

○サイドパス(ノンステップとステップ)

ポイント: バスケットボールスタンス

ボールを指先でコントロールする意識

ディフェンスをイメージして

○ドリブル

ポイント: リングを見ながら強くつくこと
ボールをこねない。



○シュート

ポイント：

- ・ドルブルの延長がシュートであるとのイメージを持つこと。
 - ・バスケットボールスタンスのまま、上に飛ぶこと。勢いをつけるために沈み込まないこと。
 - ・常にリングに正対、肩の線はフロアと平行に保つこと。指先でコントロールし、ボールを指先で追いかけるイメージ。
 - ・手首はあまり使わないこと（手首を使うと方向性は良いが、距離感のアジャストが難しい）。
 - ・ボールを放り出す角度（高さ）はリングを見た時にボールが視界から消える感じで。
 - ・ドリルは近いところから同じ距離で始めて徐々に遠くに。そして、指先が強くなれば、バリエーションも可能。
 - ・ボールは総て指先でコントロールする。
- 因みに、パス・ドリブル・シュートは総て指先でコントロール。従ってシュートが上手くなる為にも指先を強化する事がポイントとなる。



<結びに>

京都市での開催は4回目であるが、今回も、当会会員で京都市在住の藤野英雄氏と京都府中体連専門部委員長で龍谷大学付属平安中学校教諭の岩崎広行先生にはたいへんにお世話になった。又、当日は4校から6名の先生方にも生徒さんの引率でご協力頂いた。誌面を借りて厚くお礼申し上げたい。

結城講師にはいつもシューティングについての説明しながら、実際に模範プレーを自ら行って貰っているが、ショットはほぼ100%成功。ペイントエリアの外で座ってこのプレーを見ている生徒たちの驚きの表情が印象的であったことを最後に申し添えておきたい。



中学生初心者向けクリニックを振り返って

世田谷区中体連バスケットボール部先生方との座談会

[普及部]

振興会では、6年前の平成23年から世田谷区中体連バスケットボール部の先生方にご理解とご協力を頂き、これまで6回にわたり、初心者向けクリニックのお手伝いをしてきた。この間、同区内の公私立中学校22校から、391名の生徒《男子210名、女子181名》が参加している。

この度、本クリニックの意義や改善点・希望点等について専門委員の先生方から忌憚のないご意見を伺うため、5月25日に懇談会を開催したので報告する。振興会からは、座学を担当した従野副会長、実技を担当した結城理事、そして普及部の蒲田が参加した。

○ 意義

中学に入学してバスケットボール部に入部した生徒にとっては、自分たちが主人公になって何かに取り組むことはない。そういう中で他校の生徒と一緒にクリニックを受講し、ボランティア参加の現役で活躍する社会人プレーヤー（身近なお兄さんやお姉さんといった感覚）と交流できることは、良い刺激になっている。

○ 改善点・希望点

クリニックの時期については5月連休明けの休日ではなく、正式入部後、部活にも慣れてきた夏休みに実施できれば有難い。5月頃は、正式入部ではなく、体験入部といった時期なので、先生は生徒を出しにくいし、学校の試験の時期とも重なる等々の理由からである。夏ならば、平日開催も可能なので場所の確保もしやすい。加えて、半日間で男女一緒の実施（1面を男子、もう1面を女子が使うこと）ができれば有難い。

因みに、顧問の先生の引率について、中体連では義務化はしておらず、各学校長の判断に委ねられている。また、部として参加している学校もあれば個人として参加している学校もあるとのこと。

上記に加え、当振興会からは下記3点について、先生方からコメントを頂いたので話の流れに沿って記す。

- I 入・退部者数とその理由
- II 文武両道
- III その他

参加頂いた先生方は11名のうち未経験者が1名、公立中学校の先生が9名で私立学校の先生が2名である。以下、学校名および先生方の名前は伏せさせていただく。

I 入・退部者数とその理由

- A（私立）： 毎年20～25名入部するが、中3までに2割前後が退部する。その理由は、自分に運動の適性がないと判断するほかに、先輩や同級生との人間関係が上手くいかないといったことが多い。
- B（公立）： 新入生の10%以上が入部し結構続いている。退部するのは男子で中1

が多く、挫折や人間関係が大きな理由。入部はミニと初心者が半々（最近
はミニが増えている）であるが、辞めていくのは初心者が多い。

- C（公立）： 新入生の1割前後が入部。年度にもよるが、男子が多く、ミニの経験者が多い。初心者は2年になる前にまとまって辞めていくことが何年間かあった。勉強が追い付かないことを理由にしているが、友人関係、人間関係のもつれが大きな理由のようだ。加えてそもそも運動が好きでないとして辞めていく子もいる。
- D（公立）： 毎年1割前後が入部するが、今年の新入生は男子1名と少ない。退部者は学年によって異なり、その理由は人間関係と練習がきついといったこと。
- E（私立）： 1学年240名中、毎年10名前後が入部。ほとんどが未経験者であるが、練習はきついので覚悟をもって入部してきている。高校まで続ける生徒が多いが、最近では勉強のために辞める生徒も増えてきている。
- F（公立）： 1学年150人中、男女合わせて20名位が入部。ほとんどがミニ経験者。ミニ未経験者もそれぞれ2-3名いるが頑張っていており、退部する生徒は少ない。練習を休みがちな生徒もいるが、「出たい時に出ておいで」といった指導をしている。
- G（公立）： 男女合わせて26人が入部。辞めそうな生徒もいるが頑張っていて辞めないでいる。辞める子も若干いるが、運動能力が高くなかったり、学校生活（勉強との両立）ができないといった理由。
- H（公立）： 辞める子はほとんどいないが、ある男子生徒は学校生活に問題があるとして顧問の先生から退部を勧められることもあった。入部に関しては小学校の保護者の評判に左右されることもあるのでこれも大事。
- I（公立）： 新入生の90%が同じ小学校のため先輩のことをよく見ている。ミニがないので、初心者5~6人が入部。良くも悪くも先輩をよく知っているのも、その態度に影響を受けることが多い。

II 文武両道

- A（私立）： 日常の生活態度と成績がリンクしている。休みがちな生徒や退部する生徒は成績が良くないといった傾向、パターンがある。たまたま生活態度と成績が優秀な子が多く入った学年は強い。なんでもちゃんとやる生徒はバスケットも上達が速いし、学習能力も高い。人間関係では同学年の人数が20人と多く、そこで完結してしまうため、縦の関係は公立に比べ希薄かもしれない。
- J（公立）： チームを見て1年であるが、男女を問わず、勉強を頑張る生徒は部活や委員会活動にも積極的。3年生は生徒6人中4人が学級委員をやっており、下級生への影響も大きい。
- K（公立）： 男子では勉強と部活を両立させている子が多いが、表向きはそんな素振りを見せない。最近では勉強がなおざりになってきている傾向にあり、考えてプレーしないのでバスケットも上達しないといった傾向にある。

III その他

- H（公立）： 中学から始めた女子生徒が高校3年までバスケットを続け、引退後、「結城先生にバスケットをやるきっかけを作ってくれた」といった発言があった

以上、先生方から生の声を伺ったが、主要なポイントをまとめると下記の通り。

記

- 1 新入生の1割前後が入部することからも分かるようにバスケットボール部には根強い人気がある。
- 2 生徒が途中で退部する理由は体力面についていけない、勉強が疎かになるといったこともあるが、それらは表向きの理由で、実際は同級生の間での人間関係の難しさが真の理由であることが結構多い。
- 3 上記第2項とも関係するが、退部前に普通ならだれかに相談すると考えるが、相談することは少なく、するとしても同級生の親しい友人であり、顧問の先生や部の先輩に相談することは多くない（先生や先輩との繋がりの希薄さがうかがえる）。
- 4 文武両道に関しては、概してバスケに強い学年の生徒はメンバーの多くが勉強も優秀で、生徒会活動等にも積極的に参加している（なんでもきっちりとしてでき、考えることもできるのでバスケットの上達も速い）。
先生からすると、生徒に対しバスケット以外の日常の生活指導を行うことがバスケットの技量の上達にも繋がるとの認識。
- 5 上記第4項のバスケに強い学年の生徒達も、その姿勢を下級生に範を垂れるかというところではなく、むしろ仲間内ではふざけあっていることが多く、下級生はその面だけを見る傾向がある。

最後に、振興会より先生方に以下の通り、意見を述べさせて頂いた。

○ 従野副会長

自分の経験では良い指導者（吉井四郎氏）との出会いが、バスケットを一生懸命に取り組むきっかけとなった。何を、なぜ、どうしてといったことを理解していたから頑張れた。

生徒を上手くしてやるのが大事、自分の子供を産んで育てるような気持ちで指導者としての力をつけて頂きたい。

○ 結城理事

1回だけのクリニックでバスケが上手くなるわけではない。このクリニックはあくまでもきっかけづくりである。更に上をめざしたい生徒がいる場合は、気軽に声掛けして頂ければ 学校に個別指導に伺わせて頂く。

あとがき

初回のクリニックに参加した初心者の女子生徒が、中・高と部活を続け、引退後の発言で、結城講師のクリニックがきっかけとなったといった話を先生から伺った。同じく初回に参加した男子生徒が、世田谷区の中学生オールスター戦の代表選手に選ばれた話も伺っている。ともに当会にとっては嬉しい話だけに申し添える次第である。

なお、今後については、先生方からご指摘頂いた改善点・希望点を踏まえ、当分の間、本クリニックに協力させて頂くこととしたい。

本取り組みの主たる狙いである「初心者のモチベーションアップ」について、今後は、専門委員の先生方や参加生徒に対するアンケートを取る等々の方策も取り入れて行きたい。

日本バスケットボールの今後の発展に向けて

多胡 英子



バスケットボールでは、4年に一度オリンピックの後にルール改正があります。これを小中学校の方まで適用することはどうかと思います。小中学校の義務教育の指導者は10年間変わりません。現場の教員、指導者は、バスケットボールの専門家以外、この改正に対応できません。

特にルールや審判は難しく、ドリブルやシュートもできない教師は教えられないのです。小中学校は、もっとシンプルに基本をしっかり身につけることが大事だと思います。

ステップもそうです。ジャンプストップ、ストライドストップをしっかりやり、軸足を中心にピボットをすることが、とても大切だと思います。

ルールについては高校生以上から、世界に羽ばたくための準備として。改正されたルールを適応させればよいのではないかと思います。

バスケットボールのゴールの高さは、3m5cmと2m65cmの2種類しかありません。それでは小学校4年生以下は一般的にシュートが届きません。それゆえ4年生以下の学年は、ポートボールなどをしています。

私の考えでは、ゴールの高さとボールの大きさを変えれば、統一して一貫した指導ができるネットボールで、ドリブルのないパスのみでボールを運ぶバスケットボールの基本が養えると思うのです。この方法だと幼稚園、保育園の頃からバスケットボールに近いことができます。まず球技の基本を教えながら子供たちの好きにさせ、小学校3～4年生からドリブルを導入する方が、視野が広がりパスが上達します。

のんびりしていると幼稚園、保育園にサッカー界が入り込み、バスケット人口が益々減ってしまいます。バスケットボール協会の下部組織にネットボール界の普及指導部を入れて頂き、日本全国の幼稚園、保育園に出前授業や指導者の派遣をしていくことがよいのではないかと思います。

バスケットボールのゴールは、バックボードが価格も高く、場所も取りますが、ネットボールの移動式ゴールなら、バックボードがない分、価格も安く持ち運びも安易です。

バスケットボールは生涯スポーツにならないと悟った私は、自分の生涯スポーツをゴルフと決めてやっています。しかし、ネットボールと出会ったときバスケットを生涯スポーツ化したものだと思います。今まで頑張ってやってきました。サッカーとフットサルのような関係だと思いますが、ネットボールもバスケットボールと同様な関係になれば良いと思います。

小さい時からドリブルのないネットボールで基本を築き、元気な時はバスケットボールをやり、年を取ったらネットボールに戻るといような関係を築けたら最高です。皆さんいかがでしょうか。

[安中市バスケットボール協会会長・日本ネットボール協会理事長]

2017～18 シーズン Bリーグ

[編集部]

Bリーグの2017～18シーズンは、9月29日（土）に開幕する。各地区チーム構成は、B1、B2との一部入れ替えもあって下記のように少し変わる。

レギュラーシーズンのリーグ戦は、昨年と同様の各クラブ60試合で、所属する地域内は6回戦総当たりの30試合、地域間の交流戦2回戦総当たりの30試合となっている。

日程を見ると開幕当初から各地区クラブ間の交流戦が組まれている点が昨年と変わっているところだ。

[クラブ構成]

地区	B1リーグ	B2リーグ
東地区	レバンガ北海道	青森ワッツ
	栃木ブレックス	岩手ビッグブルズ
	千葉ジェッツ	仙台89ERS
	アルバルク東京	秋田ノーザンハピネッツ
	サンロッカーズ渋谷	山形ワイヴァンズ
	川崎ブレイズサンダース	福島ファイヤーボンズ
中地区	横浜ビー・コルセアーズ	茨城ロボッツ
	新潟アルビレックス	群馬クレインサンダース
	富山グラウジーズ	アースフレンズ東京Z
	三遠ネオフェニックス	金沢武士団
	シーホース三河	信州ブレイズウォリアーズ
	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	Fイーグルス名古屋
西地区	滋賀レイクスターズ	パンピシャス奈良
	京都ハンナリーズ	広島ドラゴンフライズ
	大阪エベッサ	香川ファイブアローズ
	西宮ストークス	愛媛オレンジバイキングス
	島根スサノオマジック	ライジングゼファー福岡
	琉球ゴールデンキングス	熊本ヴォルターズ

今シーズンは川崎と渋谷が中地区から東地区に移ったため、東地区は6クラブ中5クラブが昨シーズンのCS出場クラブで、東地区に強いクラブが集中する形となった。

昨シーズンの出だしは各クラブとも若干のとまどいもあったようだが、シーズンが進むにつれて地域密着型運営となり、一般的なファンをより多く取り込むべく努力した結果、観客動員数は大幅に増加した。

しかしながら、各クラブにおける実力UPは思うようにはいかず、トップクラスとラストクラスでは力の差が歴然と出て、そのことが観客動員にも影を落とす結果となった。

最近高まってきたバスケット人気を更に向上させるには、各クラブの力量UPと経営力UPが望まれる。また選手の意識やプロとして取り組む姿勢も問われるシーズンになりそうだ。

2017～18 シーズン Wリーグ

[編集部]

Wリーグの2017～18シーズンは、10月7日（土）に開幕する。昨シーズンは、JX-ENEOSがレギュラーシーズン独走態勢となって、後半やや興味が削がれた形。

今シーズンは、女子日本代表に選出された選手が各チームに戻ってそのチームの力量を引き上げると予想され、上位チームでのレギュラーシーズンの熱戦が期待される。

昨シーズンは、レギュラーシーズン・ファウストラウンドで全チーム2回戦総当たりリーグ戦を行って上位6チームと下位6チームを決定し、セカンドラウンドとして、上位6チームと下位6チーム同士で1回戦のリーグ戦を戦い、レギュラーシーズンの順位を決定する方式で行われた。

リーグ戦終了後、上位8チームによるクォーターファイナル、勝ち上がりチームによるセミファイナル、ファイナルによって順位を決める方式でシーズンを終えている。

今シーズンも同様の方式でシーズンを迎えるものと思われる。

[出場チーム] 順位は昨シーズンのもの

順位	チーム名	本拠地
1	JX-ENEOSサンフラワーズ	千葉県柏市
2	トヨタ自動車アンテロープス	愛知県名古屋市
3	デンソーアイリス	愛知県刈谷市
4	シャンソン化粧品シャンソンVマジック	静岡県静岡市
5	富士通レッドウエーブ	神奈川県川崎市
6	三菱電機コアラーズ	愛知県名古屋市
7	トヨタ紡績サンシャインラビッツ	愛知県刈谷市
8	東京羽田ヴィッキーズ	東京都大田区
9	アイシン・エイ・ダブリュウイングス	愛知県安城市
10	日立ハイテククーガーズ	茨城県ひたちなか市
11	新潟アルビレックスBBラビッツ	新潟県新潟市
12	山梨クイーンビーズ	山梨県甲斐市

昨シーズンも、それ以前同様、上位チームと下位チームの力量の差が目立ったが、今シーズンはどうであろうか。

本拠地での試合を含めて、観客は接戦を期待する。たとえ敗れたとしても競り合っただけの結果であれば納得できるだろう。しかし、いわゆるワンサイドゲームでは、興味が削がれるとともに観客離れにもつながってしまうのが、スポーツ界の常である。下位チームの観客動員と勝利への奮起を望みたい。

最後のママさん大会開かれる

第36回全国ママさん交歓大会

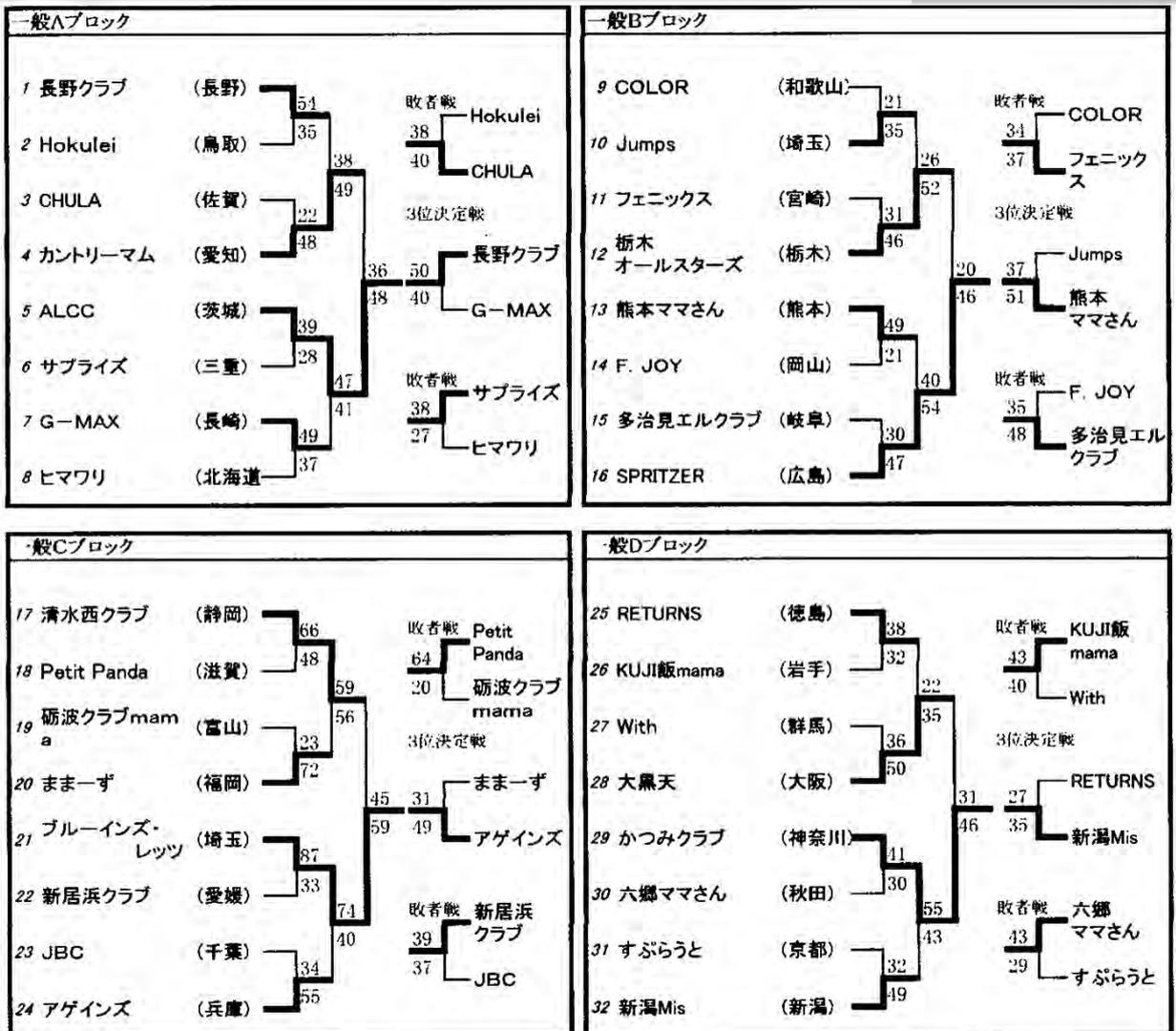
[編集部]

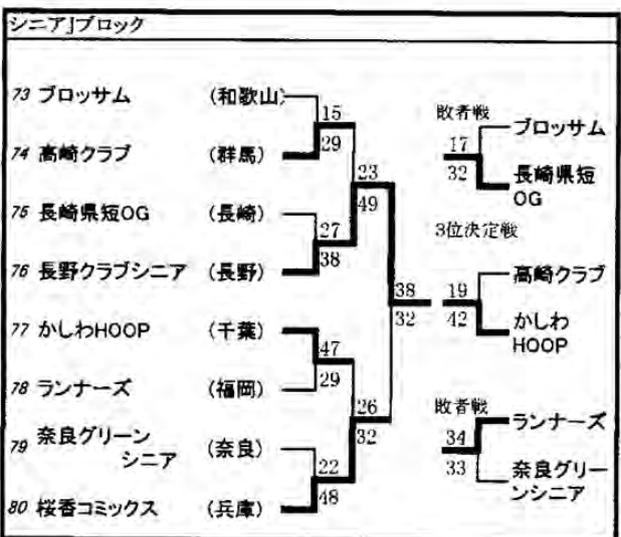
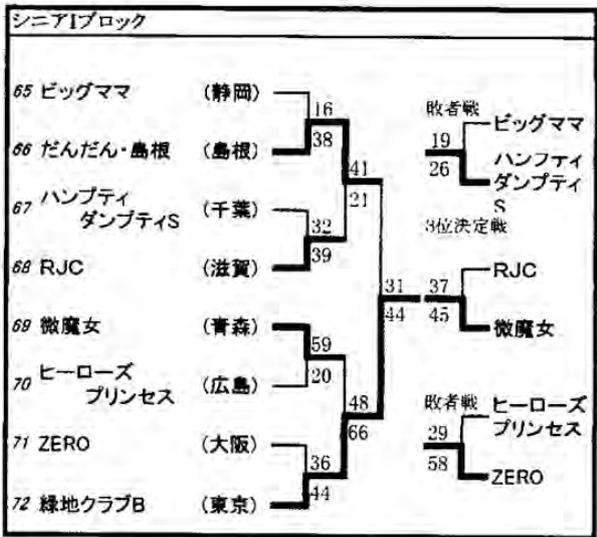
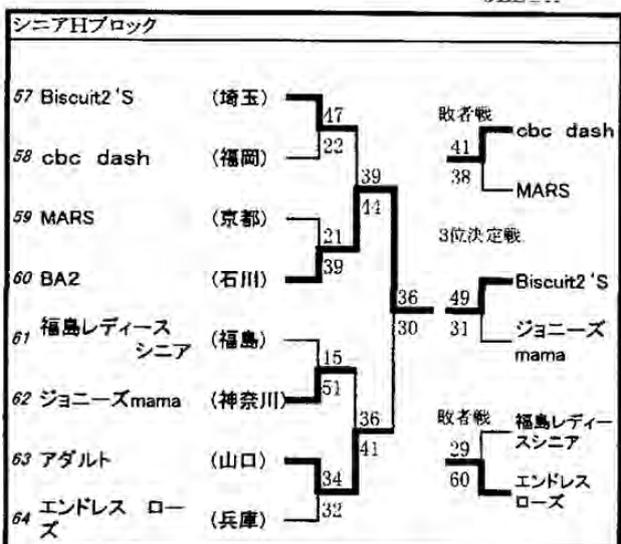
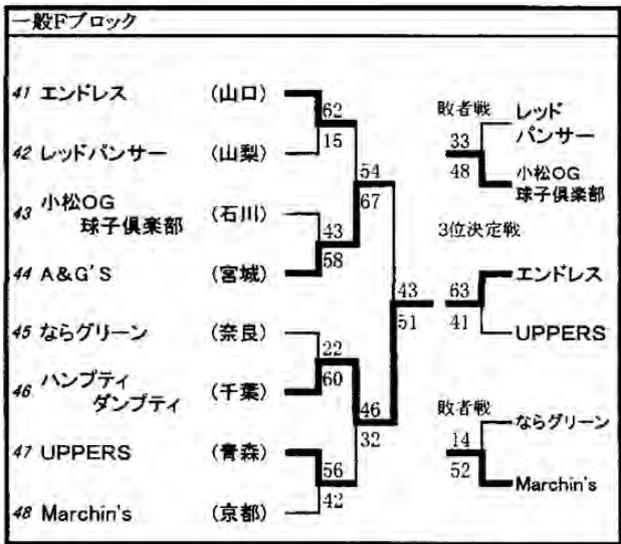
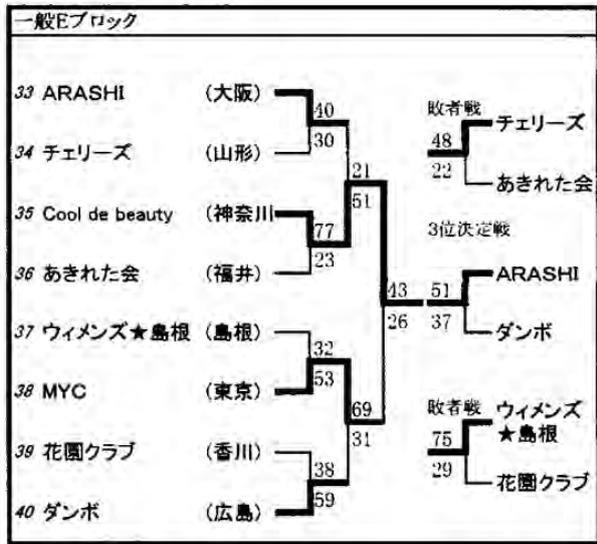
昭和55年(1980)から開催されてきた全国ママさん大会は今年36回を数え、7月28日から30日まで広島市と呉市で開催された。社会人連盟発足により来年度から社会人大会に変わることによって、これまで方式のママさん大会はこれが最後となる。

家庭婦人にもバスケの道を、と始まったこの大会、最近ではシニアの部も加わって盛況が続いている。

最後となった今大会には、一般の部48チーム、シニアの部32チームが参加し、8チームずつのブロックに分かれてトーナメントで競い合い、1回戦敗者の復活戦もあって多くのママさんプレーヤーがバスケットボールを楽しんだ。

振興会は、長年にわたってママさん大会に助成してきたが、今後どうなるかは不明、ママさん大会を支えてきた家庭婦人連盟も解散となる。大会の結果は以下の通り。





訃 報

望月 雅夫 氏 平成29年1月14日 79歳
日比野 明 氏 平成29年6月13日 86歳
中瀬 達雄 氏 平成29年7月31日 82歳

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため、多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

日比野 明さんを偲ぶ

小澤 正博



前振興会副会長の日比野 明さんがご逝去されたと聞いたのは7月に入ってからのことでした。聞けば6月13日に逝去され、葬儀はご家族のみにて執り行われたとのこと、心底からの無念さとなんとも言えない淋しさにかられました。

日比野さんのバスケットの歴史については、プラザ70号の人物抄で詳しく取り上げていますので省かせて頂きますが、本当にバスケットを愛し、バスケットボール界発展のために尽力を惜しまない方でした。

現役審判時代、日比野さんと一緒に代々木第二体育館で笛を吹いた際、ある判定について日比野さんから厳しい叱咤を受け、審判に対する私の取り組み方が甘かったと猛省、それが起点になって私が上級審判に合格する道筋となったことは今でも忘れません。

日比野さんとは現役審判を引退してからもお付き合いいただき、振興会でもよく面倒を見ていただきました。日比野さんが振興会へ入られたのは、平成5年に全国組織として振興会が発足した時でしたが、私よりも大先輩でありながら、陰で汗を流す総務部長の仕事を引き受けられ、振興会発展のため率先してボランティア業務に尽くされていました。

振興会の沿革を丁寧に調べ上げ、貴重な資料として残されたこともその一端ですし、その後副会長に就任されてからは、執行部の良き相談相手となって細かいことでも率直に相談できるやさしい先輩でした。

お酒を呑むのも好きで、会議の後などは決まって居酒屋に行きましたが、偉ぶることもなく晩年は好々爺そのものでした。一番好きだった場所は神保町の「ランチョン」というビアホールでした。そこは、代々木第二体育館ができる前のバスケットのメッカ国民体育館に近く、汗を流した後の生ビールは最高の場所だったのですが、日比野さんは、50年以上前から現在まで続いている「ランチョン」をこよなく愛した一人だったと思います。

副会長を退任されてからも、歴史部の部員として貢献されましたが、バスケットを愛するがゆえにその歴史に対しても熱情を持っておられました。

晩年一時健康を害されましたが、見事に復活されて振興会活動に励まれていた日比野さん、どうぞごゆっくりとお休みください。

合掌

中瀬 達雄さんを偲んで

小澤 正博



本誌に対して、10数回に及ぶ「バスケットボール湘南だより」を執筆してきていただいた中瀬さんが急逝されとの報を受け、驚愕の念と共に信じられない思いで一杯になりました。あれほどお元気でバスケットボールに情熱を注いでいた中瀬さん、まだまだやり残したことがたくさんありますよ。

中瀬さんは、長年にわたり実業団連盟の役員として大変なご尽力をされましたが、その歴史は昭和35年(1960)頃に遡ります。自ら日本協会の編集委員に応募し委員会に所属、当然のことながら、その後実業団連盟から委嘱され実連の役員を引き受けられました。関東実連はもとより、全国の地方実連が集まって結成された日本実連でも役員として活躍され、平成13年(2001)には、日本実連の理事長も務められました。

中瀬さんが日本実連で活躍されていた頃、日本実連が主催していた日本リーグが日本協会へ移管されることになり、当時この問題などを巡って、日本協会と日本実連が鋭く対立しましたが、そんな時代にも日本実連の役員として大変な苦勞をされていました。

中瀬さんが日本航空に勤務されていた現役時代、あまりにも有名だったことが日本航空女子バスケットボールチーム(JALラビッツ)のトップリーグにおける活躍でした。

ふとしたことから日本航空が社内女子チームを強化して、トップリーグで戦えるようにしようという企画が持ち上がり、その推進役が中瀬さんに持ち込まれたのです。

バスケットボール界で長い間活躍されてきた中瀬さんは、その経験からチームをトップリーグにまで押し上げるには相当な時間がかかることを知っておられ、いち早くチームの実力をトップ並みに押し上げるため、ある戦略を考えられ実行に移しました。

それは大学卒業選手を多く採用し、それらの選手によってチームを強化することで、日本リーグに進出する道でした。大学卒業選手の採用作戦は成功し、日本航空女子チームは、昭和61年(1986)に日本リーグ1部昇格を果たしました。

この間積極的に採用した選手たちは、航空会社の客室乗務員として訓練を受けてその任務にあたり、社会の好評を得たことは当時の新聞などにより明らかです。しかし航空業界の勤務が楽なはずはなく、選手たちは業務が終わってから体育館に行き練習に励むという日常だったそうですが、中瀬さんはここでも実業団のチームなのだから仕事第一、練習は業務が終わってからという姿勢を貫かれ、陰で選手たちの面倒をみておられました。

熱心な施策が功を奏し、やがて日本航空女子チームは、日本リーグ1部やWリーグにおいて準優勝するなど好成績を収めるようになり、ついに平成17年(2005)、オールジャパンで優勝するという立派な成績を残しました。

中瀬さんは退職後も好きなバスケットボールに打ち込まれて、ご自分が住んでおられた平塚市のバスケットボールを支援するようになり、平塚市のミニバスや中学生のバスケットの面倒をみられるとともに、晩年は平塚市バスケットボール協会の会長も務められました。

それゆえ実連の大会や社会人大会など、平塚アリーナで数多くの大会を開催していただくとともに、それらの際には決まって「大会中に懇親会をやりませんか」と、皆さんを気遣っていただいたものです。

バスケットボールの仲間に対しては、誰にでも丁寧に接していた中瀬さん、地元で執り行われた葬儀にはバスケットボールの関係者が多数参列し、まるでバスケットボール葬のようでした。貴重なバスケットマンを失い本当に残念です。

合掌

----- * -----

事務局だより

◇秋の講演会予定

11月6日（月）に秋の講演会・交流会を開催いたします。講師は、WJBL会長でJBA副会長でもある、斎藤聖美様を予定しています。

場所はこれまでと同じ、御茶ノ水池坊東京会館です。更なる詳細につきましては、別途ご案内させていただきます。

◇1931年～1942年まで、大日本バスケットボール協会（現日本バスケットボール協会）が発行していた「籠球」という機関誌が復刻されました。

当時の指導法、ルール、国内の中等学校や大学、実業団などの対戦成績や海外との交流試合などを知ることができる貴重な資料です。

希望される方に、有料にて配本いたしますので、事務局へご連絡ください。

1回配本（1巻～5巻） ¥50,000円＋税

2回配本（6巻～10巻） ¥50,000円＋税



プラザ こぼればなし

- ◇ 今年度からアジアカップにオセアニア地区が加わった。これは以前からFIBAが提案していたことで、アジア地区のレベルUPと、競争相手の少ないオセアニア地区のレベルを合わせることによる、アジア、オセアニア全体のレベルアップを目指した措置のようだ。一般のFIBA女子アジアカップでは、日本代表が強豪オーストラリアを見事に破って優勝したが、男子日本代表は何ともおぼつかない。世界ランキング48位の男子日本代表、このままでは2020年東京オリンピックに開催国枠で出場できるのか不安である。
- ◇ 7月末に開催された男子日本代表の国際強化試合、結果は1勝1敗だったが、その試合経過をみていると、日本の戦う特徴は何なのかわからない。更に必死のドライブインでフリースローをもらってもこれが入らない（第1試合成功率63.6%、第2試合成功率50%）。完全ノーマークのフリースローを落とすことは、自ら敗戦への道をたどるようなもの。男子日本代表はフリースローを充分以上に練習して欲しい。
- ◇ 男子日本代表は、ウルグアイ代表との国際強化試合第2戦で、相手がゾーンディフェンスで個々の選手があまり厳しいマークをうけなかった。このためか、日本は3Pシュートが22本中10本と45.5%の成功率となり勝利した。日本のように国際的に高さで劣るチームは、インサイド攻撃が難しく、外角シュートの成功率が勝敗に影響する。外角シュートの正確性UPの練習を望む。また、今回の国際試合で相手チームの手足が長い長身選手に、日本のパスが多数インターセプトされていたが、これもバスケットボールプレーの正確性に欠けていたことになる。世界と対等に戦うためにもプレーの正確性UPは必須であろう。
- ◇ 女子日本代表がアジアカップで3連覇を果たした。接戦を演じた決勝のオーストラリア戦は、第3ピリオドを除き各ピリオド17点～15点の低スコアであった。これを救ったのは予選ラウンドでオーストラリア戦のコートに立てなかった水島で、第3ピリオドに3Pシュートなどを立て続けに決めて一気に6点リードした。第4ピリオドで追いつかれても最後まで水島の3Pシュートの効き目があったようである。いずれにせよ、国際大会において低スコアでは勝てない。相手の厳しいディフェンスにも耐えて各ピリオド20点以上の得点となる目標に向かって努力して欲しいもの。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp

染めるだけじゃない! ハーブの作用で嬉しい効果

野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを

植物原料100%から生まれた 自然派の白髪染め&トリートメント

化学の力に頼らず安心して白髪を染めることができる。自然界には天然の色素を持つ植物が沢山存在します。ヘナがその代表的な植物であり、天然の染色力を持つだけでなく、素晴らしいトリートメント効果をあわせ持ちます。頭皮と髪を傷めずに美しく艶やかに染められるのが大きな特徴です。



白髪染め + 潤い・ツヤ + ハリ・コシ

グリーンノートヘナ・ヘナスーパー

- オレンジブラウン ...1500円+税
- ライトブラウン・ナチュラルブラウン ...1600円+税
- スーパーブラウン(早染め) ...2200円+税

オーガニータ(エコサート認証ヘナ)

- ビターオレンジ・ノンカラー ...1800円+税
- サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン ...2300円+税
- ノンカラー ...1600円+税

株式会社 グリーンノート ☎ 03-3366-9701 詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ <http://www.henna.co.jp>

横浜中華街 皇朝点心舗

世界チャンピオンの肉まん

楽R天 YAHOO! JAPAN 第1位 第2位



1個100円(税込)

※各種お土産取扱店



皇朝レストラン

第1位 第2位

時間無制限!

食べ放題

120種以上 1,990円~(税込)

※点心飲み放題

王朝 (担担麵)

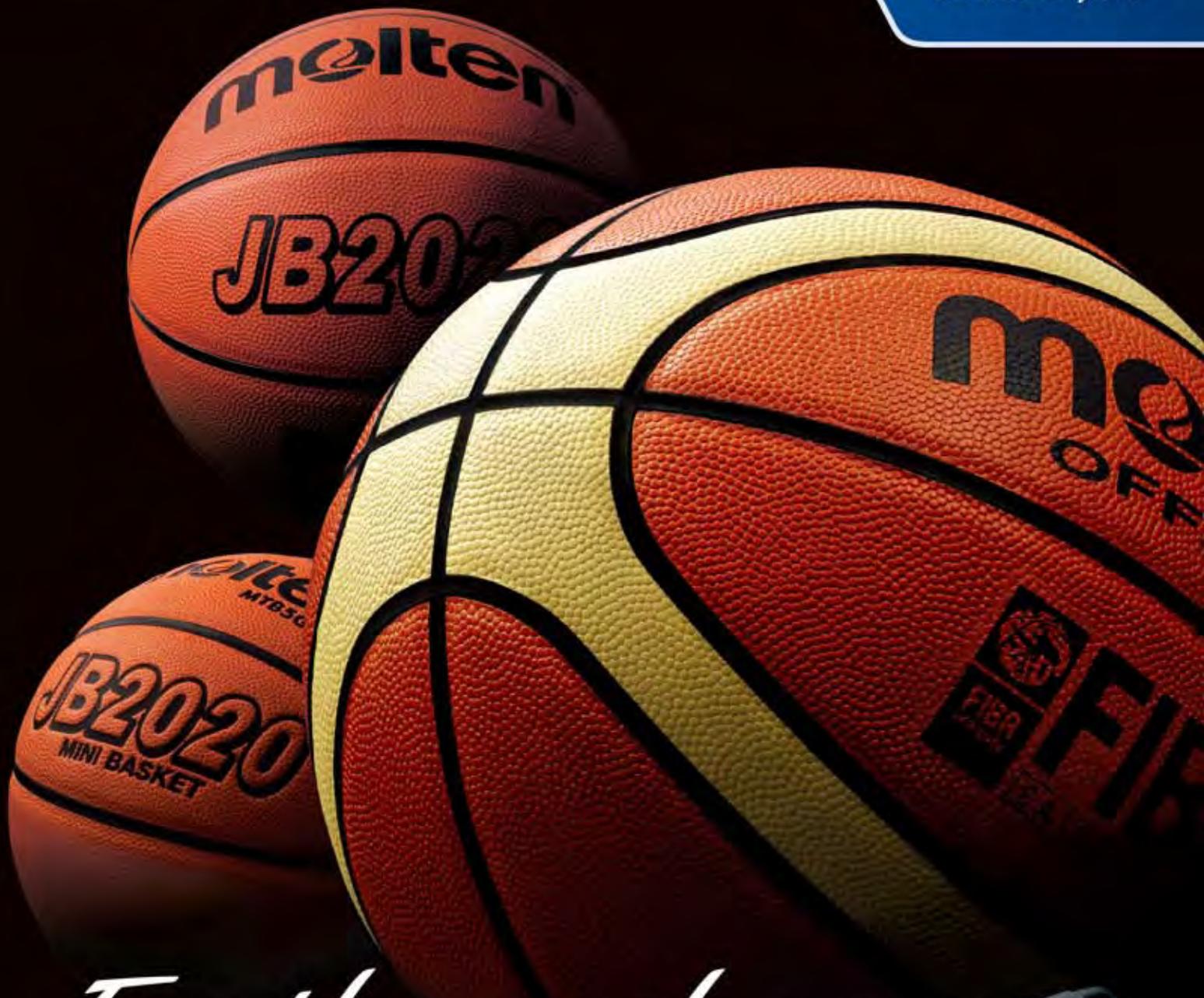
ランチ・コース・ドリンクも充実!

中華街に、こだわりの健康志向を! 特製ツカメ4種り込み専用使用の卵々麵をはじめ、お料理50種以上、麵・ご飯20種以上、お酒20種以上をご用意!

横浜中華街 店舗案内

皇朝レストラン 食べ放題

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

